

麦作情報 第4号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

麦の生育は、平年に比べやや早くなっています。遅播きほど生育量は少ないですが、概ね順調です。

1月下旬から2月下旬にかけて、ややまとまった降雨があり、今後、湿害の発生が懸念されます。また、暖冬により早期茎立ちが予想されるので、麦の収量安定のために以下の技術対策を実施しましょう。

1. 排水対策

- うね溝とまくら溝の連結、及び排水口の整備を徹底して、ほ場内の水がただちに流れ出るよう努めて下さい。(畝間に表面水が停滞しない状況をつくる)
- ほ場が乾き次第、雑草防除を兼ねて土入れを行い、排水溝を作る。

2. 土入れ

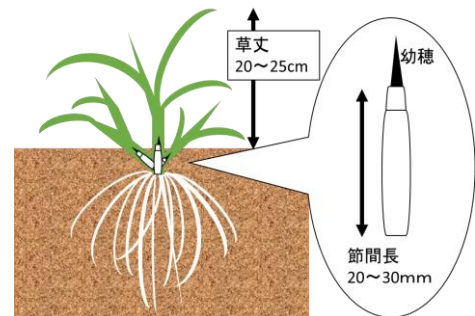
- 2月下旬頃までに1~2回行う。
- 土入れは麦踏み前に行い、麦踏み後、数日間は土入れを避ける。
- 土入れは排水対策の他、倒伏防止や雑草防除、過繁茂抑制に有効で、特に茎数の多いところは十分に行う。
- 追肥直後に土入れを行うことで、肥料効率を上げる。

3. 麦踏み

図：茎立ち期（節間伸長開始期）の目安

- 茎立ち期前まで、土壌が乾燥している時に行う。
- 草丈が25cmを超える場合は麦踏みを行わない。
- 節間が地上まで伸び、茎が折れるような場合は、減収するため作業を中止する。

※早播きの圃場では、すでに茎立ち期を迎えている圃場もあるので注意してください。



4. 雑草対策

対象雑草	カラスノエンドウ、アメリカフウロ、タデ類などの広葉雑草	ノミノフスマ、ヤエムグラ、トゲミノキツネノボタン、タデ類などの広葉雑草	スズメノテッポウなどのイネ科雑草及びノミノフスマ、トゲミノキツネノボタン、タデ類などの広葉雑草
薬剤名	MCP ソーダ塩	バサグラン液剤	ハーモニーDF
使用量 (10a)	200~300g	100~200ml	5 ~10g
使用回数	1回	1回	1回
希釈水量	70~100ℓ	70~100ℓ	100ℓ
使用時期	幼穂形成期 (但し、収穫 45 日前まで)	大麦：生育期 (但し、収穫 90 日前まで) 小麦：生育期 (但し、収穫 45 日前まで)	大麦：は種後～節間伸長前 小麦：は種後～穂ばらみ期 (但し、収穫 45 日前まで) (スズメノテッポウは節間伸長前まで)

※バサグラン液剤は登録上、大麦での使用限界は平年だと 2 月 15 日~25 日頃までです。またカラスノエンドウに対して効果が劣りますので、カラスノエンドウについては、MCPソーダ塩を使用して下さい。

※ハーモニーDFは、小麦のみ穂ばらみ期まで使用できますが、大麦は茎立ち期以後には登録がないため、茎立ち後は使用しないでください。

《使用上の注意点》

- ☆雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草生育初期までに散布する。
- ☆雑草の茎葉全体に十分に薬液がかかるように散布する。
- ☆MCPソーダ塩は平均気温が 13℃以上 (3 月上旬~中旬) で使用すると効果が高まります。

5. 2回目の大麦・小麦追肥 (1回目にNK2号で追肥を行った方)

品種名	播種時期	施用時期	施肥量 (NK2号)
はるさやか	11月~12月中旬	2月中旬~2月下旬	10kg/10a
チクゴイズミ ちくしW2号	11月~12月中旬	2月下旬~3月上旬	15kg/10a

- ★1回目の追肥に追肥一発肥料を施用した場合は、**2回目の追肥は施用しません。**
- ★播種が遅れ、1回目の追肥を行っていないほ場では、2月中旬頃に追肥を行ってください。その場合、2回目の追肥は、生育状況を見ながら、減肥または省略してください。また、湿害気味のほ場は、基準量より窒素成分1~2kg/10a増肥しましょう。
- ★小麦ですでに茎立ち期になり、生育が旺盛なほ場は、2回目の追肥を減肥し、穂揃い期追肥を基準より増肥 (窒素成分で1~2kg/10a) しましょう。